

里山管理作業(報告)

— 第二豊田川の草刈り・倒木枝切りの取り組み —

堺自然ふれあいの森から第二豊田川沿いの管理道を上流に向かい、通称「鷹見台」までの道は本会の自然観察等の定番のコースです。

しかし、ふれあいの森を過ぎると管理道は自然に任すとネザサやツルヨシで覆われ、藪こぎしないと歩けない区間があります。昨年も草刈り作業をしましたが、一年経つとまた元通りになってしまいます。

さらに昨年6月2日の集中豪雨で、ふれあいの森沿いと上流部の2か所で斜面林の土砂崩れで管理道を覆い、土砂と倒木で通行困難な状態になりました。

4月14日開催の恒例の「里山一斎調査」のコースの一部でもあり、それまでに何とか通れるようにネザサ等の草刈りと倒木の枝切りなどを行うことにしました。

当日の作業の概要は以下のとおりです。

- ① ネザサ等で覆われた砂防ダム付近と通称「ルリビタキの橋」付近の管理道の草刈り作業
- ② 土砂崩れのあった倒木の枝の切り取り作業
- ③ 鷹見台から下り坂の道のクズの駆除作業
- ④ 勾玉の水路に植生し駆除した要注意外来物の「キショウブ」の根茎のビニール袋詰めの番外作業

ふれあいの森沿いの土砂崩落箇所は、3月下旬に堺市が土砂除去工事を終えましたが、ショベルカーのキャタピラで管理道はぬかるんて歩きにくいため、ふれあいの森からのアプローチはせず、鷹見台から2機の草刈り機2機やカマ・を持って草刈り作業の現場へ到着しました。

まず、砂防ダム沿いの道を覆うネザサを刈り取り、さらに下流の通称「ルリビタキの橋」の上下流約50mの区間を草刈機がフル稼働。草刈り機で刈れないネザサはカマで刈り取り、1時間半ほどで作業を終えることができました。

次に、もう1箇所の土砂崩れあった通行を邪魔する倒木の枝切り作業です。ノコギリで太い枝を切るのに力が要り、途中交代しながら何とか取り除くことができました。切った枝は玉切りにしてぬかるんだ箇所に敷き、歩きやすようにしました。

以前に駆除したキショウブの根茎をそのまま放置すると繁茂する恐れがあるため、ビニール袋詰め作業を行いました。10袋しか用意しておらず、残りの1/3は次の機会となりました。

凡そ、3時間近くの作業になりましたが、何とか無事終えることができました。後日(4月14日)開催の里山一斎調査の参加者はスムーズに第二豊田川沿いを散策することができました。作業された皆さん、大変お疲れ様でした!!

草刈機でネササを刈り取り、歩きやすくなった道



管理道の倒木の枝をノコギリで切り玉切りにして取り除く



玉切りした木を水溜りの道に敷く



足に引っ掛かる「クス」の根やツルを切る作業。クスは厄介な植物です！



**キショウブの根茎をビニール袋詰めに
これで根絶できるか、様子見です**

